

	音楽研究会		歌唱部会記録	
日時	令和3年7月7日			
部会名	歌唱部会	主任	仁田峠 洋子 (綱島小)	
参加数	32名	司会	木曾 幸 (新吉田小)	記録 重野 萌 (東品濃小)

研究主題：ときめく つながる 響き合う音楽科学習

研究
内容

研究部テーマ：音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図をもって、
協働的に学ぶ子どもの姿を目指して
歌唱部会テーマ：楽曲のよさを感じ取り、互いに歌い聴き合う中で、自分の考えを広げ、
豊かな表現をめざす歌唱活動

○思いや意図に合った表現をするための技能とは

西寺尾第二小学校副校長 宮崎 里子先生

1. 『思い』や『意図』をもつことができる楽曲理解

(例①) 「ハロー・シャイニングブルー」

→【問】この歌がもつ風景とは・どこを聞かせたいか

→ “シャイニングブルー” の重なり・出だしのフレージングを意識すると風景が見えてくる など

(例②) リズムで返事

「はあい」＝3拍(3拍子)でリズム打ち・拍打ち→『意図』がある

→自己決定・自己表現となる→周りが聞いていたよという安心感→積み重ねが大事

2. 学びの意図を明確にした『導入』(4年教材を例に考える)

「もみじ」文部省唱歌 高野辰之作詞/岡野貞一作曲/中野義見編曲

① 拍打ち(4拍全部打つ&1拍目強く大きく打つなど、色々な方法がある。)

② 拍打ちとリズム打ち(半分ずつ)で合わせる。⇒気づいたことを発表し、役割を交代する。

→見合いながら行い、拍打ちを見ながら感じ取って、リズム打ちをしている子がいるかを発見。

→教師がどうやって引き出し、回収するかが大事!

③ 伴奏から得られること

・「教育出版」…ずっと同じ・繰り返し→なぜ? 副次的な旋律 歌いやすい?

・「教芸」…次の旋律へつながる・和声の動きが旋律の動き

But 副次的な旋律だけで歌ってみると、

主旋律&伴奏を聞きながら歌うと旋律が歌いやすくなっている?

④ 歌詞を読む

一人ずつ声に出して読む⇒みんなで一緒に読む(試してみて気付いたこと)

→上の段と下の段のリズムを同じように読んでいた。

→「かえでやつたは」の“は”を強く読んでいたのはなぜ?→聞いてみる。 など

【重要!】教師が指示せず読ませているのは×

⇒フレージングを意識させるのか・朗読か音読か・はじめの一音を意識させるのか

⇒何を種まきして考えさせるかが=研究

3. 【グループワーク：出た意見抜粋】

☆1次の『導入』にこだわる！種まき⇒収穫

- ① 何を感じさせたいかー『導入』でやりたいこと
- ② それによって、子どもはどんな思いをもつか
- ③ 技能を高めるためにしている手立て

・歌との出会い方を工夫

- 合唱クラブがあれば、合唱クラブの子どもたちの歌を鑑賞（知っている子だと興味がわく）
- 子どもたちが「こんな風に歌いたい」という思いをもつことにつながる。

・拍打ちしながら聞く

- 盛り上がる場所は同じリズム？

・フレーズとフレーズとの関わりを考える。

→フレーズに合わせて、手を動かしてみる→“わたす” ⇄ “受け取る”

→息だけでフレーズを意識・フレーズの終わりを大事に。

- ・今まで歌ってきた曲の中で、どの曲を歌ったときの声合うかを考える。

・頭声の練習（お腹からの声出し方）

→（例）仮面をつけて、響かせるところはどこを使っているかを意識できるようにする。

- ・録音伴奏で一人ずつ歌って、フレーズとフレーズでつなげていく。⇒評価になる。

→必ず『ほめる』 → 一人ひとりの声の大切さ

- ・立つー座るの時、音を出さない約束を身につける。
- ・斉唱→二部、はじめから二部をやる。
- ・盛り上がるところで二部→重なるところ『和声』のきれいさを感じ取る。
- ・言葉のつながりを意識→途切れないように。
- ・トーンチャイムトライアングルの音の響きが終わったら手を挙げる→“音楽”を感じる。

4. 全員で合唱

～今年度は、「もみじ」を取り上げて研究していく～